

1

【解答例】

労働と消費の優位性を活用して効率を高める（コストを低減する）ために、自由貿易システム化の下での国際貿易により相互の国民の幸福度や豊かさを高める理論が、リカードの比較優位説である。それを生産分野で行うのが国際分業モデルである。そして、国際分業モデルの担い手が多国籍企業（MNC）である。

効率化を追求する（国際）経済学だが、現実問題としては効率を追求してはいけない分野、非効率を許容しなければならない分野が存在する。それが、国家の安全保障に関わる分野であり、例えば従来からは国防分野・食料分野・エネルギー分野などが挙げられるが、最近では経済分野・医療資源分野などが挙げられるようになってきている。経済分野では、半導体不足により各国の製造業に支障をきたしていることから、半導体を安全保障上の戦略的物資として、半導体生産について国内回帰を促すために補助金を付けるなど政策的誘導がされるようになってきている。コロナ禍においては、マスクや消毒薬が不足し、各国が輸出制限をかける、また自国への輸出を促すために法外な価格を付けるなどの事態に陥ったことは記憶に新しい。政府は、マスクや医療用ガウンなどを戦略的物資と捉えて、生産効率やコスト低減を優先するのではなく、安全保障の観点から国内生産の増加を図る政策に転換し、補助金などによる政策誘導を行っている。（566文字）

【出題意図】

多国籍企業の国際経営戦略を巡る外部環境を理解する上で必要な国際経済学の基礎知識の習得度合いと、習得済みの知識を活用して多国籍企業の最適な国際経営戦略を模索することができる論理的思考能力について把握することが、本題の出題意図である。

2

【解答例】

日本の生活水準の向上に伴い、生きるための消費から、生活の質を楽しむための消費へと消費者ニーズに変化が見られたと言われる。この間、いわゆる高齢化と人口減少により、農産物市場の規模が中長期的に縮小傾向にあると言われている。

改めて単語の定義をすると「コト消費」は、経済産業省の定義では、「製品を購入して使用したり、単品の機能的なサービスを楽しむのではなく、個別の事象とが連なった総体である“一連の体験”を対象とした消費活動のこと」とされている。つまり、商品の消費や所有に加えて、「体験」することが付加価値になる。

これに対して、農業分野では、農産物の付加価値を上げるために、従来の米や野菜、果樹などの生産に加えて、農産物の加工、流通に農家が関わりを持つことに力点を置いていた。これが、「6次産業化」である。「コト消費」は、これらの取り組みに新たな取り組みを加えることによって生まれる。例えば、田植えや稲刈りなどの農作業体験は、地元の小学生を対象とした和食や農業への理解を深める教育活動の一環として始められたが、その後、地域外の観光客やインバウンドなどへ対象を広げている。

岩手県の場合、登山や温泉、スキーなど自然資源に恵まれていることを活かした観光業がある。観光業で蓄積したノウハウを当該地域の農作業体験他の「コト消費」として付加価値を加えることで農業に新たな付加価値を加えることが考えられる。(593文字)

【出題意図】

農業を従来の農業生産に加えて、観光業で進められている「コト消費」を加えることで付加価値を問うこととした。この意図は、農業経済学分野の視点に観光業や商業、マーケティングなどの横断的な分析視角を加えることができるか、否かを問うことを意味している。

3

【解答例】

製品の生産から販売までの間には、通常時間的な差異が生じる。即ち、受注生産では消費者に販売するまでに時間を要する。そこで、製造業者や小売業者が在庫を保有することで、生産と販売の時間的な差異を調整することができる。また、小売業者は在庫を保有するにより、消費者が必要とするときに製品を購入してもらうことが可能となる。つまり、小売業者は需要が極端に変化しない限り、品切れを発生させずに利益を最大化することができる。製造業者は消費者の需要が変化しても、在庫によって計画的な生産が可能となり、安定的に低コストで生産活動を続けることができる。したがって、在庫は消費者の需要の変化を吸収し、需要変動が生産や販売に影響しないように緩衝材の役割を果たしている。

サービスは製品と異なり、その大半で生産と消費が同時に生じるため、在庫を保有することができない。したがって、ダイナミック・プライシングを用いて適正価格を調整し、消費者の需要を変化させることで利益を最大化する。例えば、航空会社は多くの旅客便を運航していても、座席は出発までに販売しなければ、空席を翌日に持ち越すことができない。また、満席であっても座席を追加することは困難である。そこで、空席の場合には低価格を提示し需要を創造したり、大きな需要に対してプレミアム価格を設定したりするなど、消費者の需要に応じた適正価格を提示することで利益を最大化している例がある。(596文字)

【出題意図】

ECの台頭によって、生産と販売の時間的差異を調整する役割に触れていることが問われている。そこで、消費者の需要の変化に対する緩衝材の役割に触れている、製造業者・小売業者それぞれの立場で説明している、在庫が保有できないサービスにおいて利益を最大化する手法としてダイナミック・プライシング（価格変動制）を提示することができているなどが理解されているかについて作題した。